

学校教育目標	より確かに より豊かに よりたくましく 伸びる ～ 新たな 未来へ ～	経営理念	学校力(組織力・教師力・環境力)を高め、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動を推進し、次代を担う「人づくり」を行う。
--------	--	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	主体的に学ぶ児童の育成	豊かに表現する児童の育成	全員が参加する授業づくり	児童の学習意欲 (児童アンケートによる) 【肯定的評価:85%以上】	85%	86	87	102	3	目標値を上回ったが、勉強が好きかという項目において、高学年の肯定的評価が低かった。系統性を考えながら、学び続ける意欲をもたせ続けられるような授業の在り方を追求していきたい。	A	・引き続き、取組が必要。 「勉強が好きか」だけでなく、「学校へ行くのが楽しい」についても知りたい。	今回の成果を維持しつつ、意欲が一時的な興味で終わらないように、単元を通した問いの継続性を重視した単元構成へと発展させる。例えば、単元のゴールを明確に示し、学びの見返りをもたせたり、学びの変容が見える振り返りを充実させたりしていく。
					児童の学力の定着状況 単元末テストの知・技の平均正答率 【国語 正答率80%以上】 【算数 正答率80%以上】 【理科 正答率80%以上】	80%	国語85 算数86 理科88 全体86	国語85 算数86 理科87 全体86	108	4	全ての教科で目標値を上回った。これからも確実に各学年の内容が定着するようにしたい。	A	・各学年の分析も必要と思われる。 ・経年評価も取り入れれば、変化がよく分かる。	この成果を維持しつつ、知識・技能を「使える知識」にする指導、単元内でしっかり活用する場面の設定、図・表・式など多様な表現を関連付ける活動を通して、知識・技能が思考・判断・表現へとつながる構造を設計する。
					児童の学力の定着状況 単元末テストの思・判・表の平均正答率 【国語 正答率80%以上】 【算数 正答率80%以上】 【理科 正答率80%以上】	80%	国語87 算数75 理科83 全体82	国語86 算数76 理科78 全体80	100	3	算数と理科が目標値を下回った。算数は、系統性が大切であり、前の学年でつまずくと、次の学年の学習内容の習得が難しくなる。知識が目標値を上回っているののみと、内容は定着しているが、出題傾向が変わった思考問題には対応できていない現状がある。理科に関しては後期は、科学分野が増え、多面的に考察しなければならぬ単元が増えることから、考え方を重視した授業展開や、問題に取り組みせる必要性がある。	A	・各学年の分析も必要と思われる。 ・経年評価も取り入れれば、変化がよく分かる。	思考・判断・表現の観点において目標値に到達しなかったことは、単元内での深い思考過程や表現活動の質・量に課題があったと思われる。来年度は、単元を貫く問いの設定、理由や根拠を明確にする説明活動の充実、相手意識をもった表現活動の設定、比較・検討・再構想の場面の意図的な設定を重点とする。
			読書活動の充実	図書活動の活用	読書に親しむ 読書が好きな児童 (児童アンケートによる) 【肯定的評価 80%以上】	80%	79	78	99	3	低学年は85.4%、高学年は70.5%で差があった。読書委員会で読書祭を開催し、低学年の児童は多く参加したが、高学年につれて参加する児童が少なくなっていた。また、図書室を利用する児童や読書をする児童が固定化している。読書の良さを実感させるために、放送委員会や教師による魅力的な本の紹介をすすめるなどしていきたい。	A	・高学年の方が低いことに対しての考察が欲しい。	高学年は、委員会活動や行事の取組などで読書をする時間が少ないと考えられる。朝の帯タイムで読書の時間を確保する。図書委員会のキャンペーンの取組などで読書に親しみ機会を増やすなどして読書好きな児童を増やしていきたい。
豊かな心	2	家庭・地域との連携による豊かな心の育成	自らの生活を創る児童の育成	東広島スタンダードの定着	児童の自己評価(あいさつ) (児童アンケートによる) 【肯定的評価 90%以上】	90%	89	90	100	3	児童の肯定的評価は高いが、良いあいさつができる児童は児童アンケートの数値より少ないと感じる。生活委員会による2回目のあいさつ運動では、自然なあいさつができる児童が増えた。シールを3枚ためてあいさつする人になった児童を紹介し、児童の意欲向上につなげた。	A	・引き続き取組が必要。 ・社会に出て必要な力はコミュニケーション能力。その基本はあいさつなので、がんばってほしい。	委員会による活動など、児童発信の活動を引き続き行い、学校内外関係なく気持ちの良いあいさつができる児童を増やしていきたい。
			郷土に愛着と誇りをもつ児童の育成	体験活動の充実	児童の自己評価(郷土愛) (児童アンケートによる) 【肯定的評価 90%以上】	90%	93	95	106	4	各学年で育てていたサツマイモやダイコンの収穫や、もちつき会など、地域の方に関わっていただく機会が多くあり、地域に対する愛着が増えた。また、「る・る・る しらとりフェスタ」で発表するために総合的な学習の時間での学習内容を振り返ったことも、肯定的評価につながったと考えられる。	A	・地域に対する愛着を持ち続けることが大切。 ・高学年の方が低いのは残念だ。	地域の方の支えに感謝の気持ちをもって活動を進められるよう、児童に伝え続けていきたい。
健やかな体	3	健やかな体の育成	調和のとれた体力・運動能力の育成	体育授業の工夫	児童の体力測定値 【令和6年度新体力テスト2項目校内平均値以上】 (柔軟、50m走)年間2回測定	80%	72	74	93	2	4月の時点では、昨年度の記録を上回っていなかった学年も、今年度の取組を経て記録が上がった学年が多い。各学級での体育の授業の工夫や、各学年のクラスマッチの取組による成果である。	B	・評価「2」は低い。(目標値が高いかも?) ・一歩一歩でいいと思う。 ・外部の指導者を呼ぶのもいいと思う。	各学級による体育の授業の工夫やクラスマッチへの取組で、今年度特に取り組んだ柔軟性や走力が向上した。来年度も引き続き学校全体で体づくりを進めていきたい。
				外遊び等の工夫 児童による外遊び週間の設定	外遊び恒常児童 (児童アンケートによる) 【肯定的評価 70%以上】	70%	53	63	90	2	昨年度に引き続き今年度もドッジボールや縄跳びなどのクラスマッチが計画されたため、学級全体での練習が外遊びにつながり、外遊びをする児童が増えてきた。	B	・評価「2」は低い。(目標値が高いかも?)	学級全体でクラスマッチへの取組を行うことで外遊びをする児童が増えた。来年度も体育委員会とも連携しながら様々な活動を企画し、きっかけ作りをしていく。
			規則正しい生活習慣の意識化	生活の振り返り (小中連携の取組の活用)	児童の自己評価(生活習慣) (児童および保護者アンケートによる) 【肯定的評価 85%以上】	85%	86	86	101	3	アンケート結果は目標値を超えることができた。しかし、高学年児童の就寝時間が遅いことや、ゲーム依存で昼夜逆転している児童も数人いるという課題がある。スマートフォンやゲームの使い方や約束事について、保護者啓発をすするとともに、中学校区での取組などを進めていく必要がある。	A	・引き続き取組が必要だが、責任は親にある。	中学校区で行っているスマイルチャレンジの取組をきっかけにゲームやネットの使い方方を考える機会にさせる。懇談や学年通信などで、保護者啓発をしていく。
信頼される学	4	安心・安全な学校づくり	地域・保護者とともに子供の成長を見守る体制の充実	学校だよりやホームページによる取組の発信 市民ポータルサイトの活用	保護者による評価 (保護者アンケートによる) 【肯定的評価 80%以上】	80%	87	94	118	4	学校だよりや学年だよりを毎月発行したり、HPをこまめに更新したりして、児童の様子を保護者に伝えることができた。また、ポータルサイトを活用して、必要な情報を地域・保護者に発信することができた。	A	・HP、ポータルサイトについて、担当者の負担軽減を考慮してほしい。(外部委託)	これからもきめ細やかな情報発信に努めたり、内容の充実を図ったりしていく。そして、保護者・地域との連携を深めることで、安心・安全な学校づくりに取り組んでいく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成度/目標値を百分率で表示する

■自己評価

4...目標を上回って達成

3...目標どおりに達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である

B...概ね適切である

C...あまり適切でない

D...全く適切でない

	2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成	(N...判定できない)
--	----------------------------------	--------------